

2017年4月を迎えて～新年度への提言

株式会社ルピナス新潟 代表

斎藤内科クリニック 院長 斎藤 忠雄

【理念】

- ・居心地の良さと居場所の良さを提供する
- ・居心地の良さと家族、居場所の良さと家～ご家族の代わりに居心地の良さと居場所の良さを提供する
- ・一人暮らしでも、高齢世帯でも、認知症でも、がんの末期でも住み慣れた地域で最期を生きることができる
- ・そのためには、医療、介護、福祉、行政の連携を図り、ご利用者様、仲間そして自らを大切にする

「理念」とは、目指すものへの「想い」があり、それを実現するための「手だて」が述べられたものです。

その中で、忘れてはならないことが3つあります。

- ① 利用者さん、②仲間、③自分 これら3つを大事にすることです。それぞれが同等で、どれ一つとして順位はなく、バランスの上に成り立っています。

【地域包括ケアについての考え方】

2016年（平成28年）に、地域包括ケアシステムの概念は拡大され、高齢者のみならず、支援を必要とするすべての方のための仕組みとなりました。同様に小規模多機能、看護小規模多機能や地域密着型サービスの考え方も変更されています。対象は、障害者、子ども、生活困窮者、若年認知症、難病、がん末期などすべての方へ拡大され、事業所登録者以外の方へも支援する態勢となりました。さらに「我が事・丸ごと」地域共生社会の実現という考え方が国から発表され、小規模多機能や看護小規模多機能は地域の課題を「丸ごと」受け止め解決する「場」としての役割を担うこととなります。

そのため、自治会、民生委員、小中学校コーディネーター、コミ協、交番、消防団、コンビニ職員など地域での見守りに関係される方々をメンバーとして、事業所内に「我が事・丸ごと相談所」という拠点を作ります。

『るぴなす』は、住み慣れた地域でいつまでも暮らしていくための介護サー

ビス提供を目的（地域密着型）として平成18年9月設立の株式会社ルピナス新潟から生まれ、平成19年に小規模多機能型居宅介護事業所ならびに小規模型デイサービス、平成20年には居宅介護支援事業所併設訪問看護ステーション、平成25年からは、訪問看護と小規模多機能が一体化した看護小規模多機能となり、設立母体の斎藤内科クリニックとともに医療・介護・看護の連続した支援態勢を整えてきました。

これらは、ひとえにスタッフの皆さんの日々の努力と想いの賜物であり、これらを継続しさらに将来へ繋げる役目も私たちに任されているものと思います。

今、法人に期待されることは、将来に向けて、これまでの事業を継続していくことですが、新たな取り組みへの挑戦も大切です。

理念の確認と共有、そして今後の事業展開についてお示ししますので、各事業所においては、その現状と課題の分析から将来への取り組みについての計画・方針を立案していただけますようお願いいたします。

【事業展開】

- ① これからのケアマネジメントは、その人にどのような介護サービスを提供するか、ではなく、その方と何ができるか、地域へもなにができるか、いわゆるライフサポートワークに関わっています。どのような取り組みが可能なのか各部門で模索していただきます。ライフとは、命、生活そして人生です。
- ② 事業展開においては、考え方の共有（規範的統合）が最重要です。医療・介護の新たな展開などについての理解が必要となりますので、「るぴなすカンファレンス」を積極的に開催します。
- ③ 訪問看護ステーションは、看護小規模多機能への見守りと同時に、在宅療養支援診療所・緩和ケア診療所としてがん終末期へ対応するクリニックとの協働を重点目標の一つとし、その態勢づくりを検討してください。
- ④ 斎藤内科クリニック内の在宅支援室が、新潟市在宅医療・介護支援ステーション中央（医療介護の相談を主として地域包括支援センターや医療・介護事業所から受付け、専門職同士の勉強会や市民啓発の拠点となります）として新潟市より業務委託されており、今年度も協力を期待します。
- ⑤ 我が事・丸ごと地域共生社会実現相談所を作ります。地域の見守りの方々との協議の場の提供を行います。